

2018年8月期 上期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2018年8月期上期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

上期決算概要	P3	～	P18
2018年8月期 通期業績予想	P19	～	P22
参考資料	P23	～	P25

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - ジーユー事業： 国内・海外で展開するジーユー事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

計画を大幅に上回る、増収増益

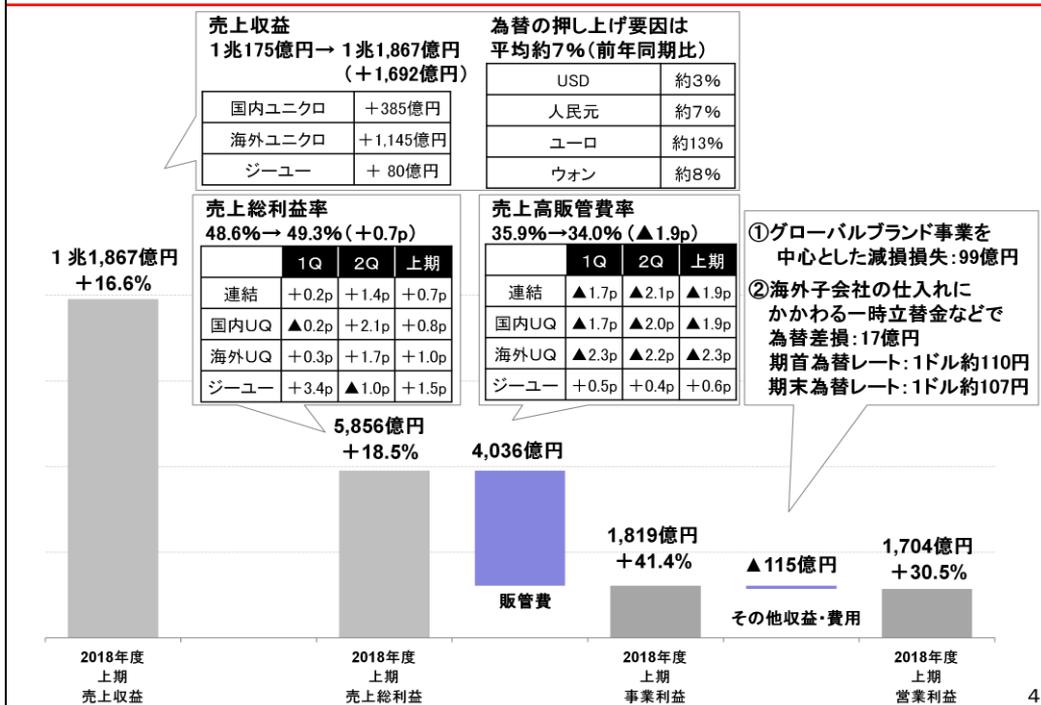
	2017年8月期 上期実績	2018年8月期	
		上期実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	10,175 100.0%	11,867 100.0%	+16.6%
売上総利益 (売上比)	4,942 48.6%	5,856 49.3%	+18.5% +0.7p
販管費 (売上比)	3,654 35.9%	4,036 34.0%	+10.4% ▲1.9p
事業利益 (売上比)	1,287 12.7%	1,819 15.3%	+41.4% +2.6p
その他収益・費用 (売上比)	19 0.2%	▲115 -	- -
営業利益 (売上比)	1,306 12.8%	1,704 14.4%	+30.5% +1.6p
金融収益・費用 (売上比)	169 1.7%	▲52 -	- -
税引前四半期利益 (売上比)	1,476 14.5%	1,651 13.9%	+11.9% ▲0.6p
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (売上比)	972 9.6%	1,041 8.8%	+7.1% ▲0.8p

単位: 億円

3

2018年8月期の上期の連結業績ですが、
 売上収益は1兆1,867億円、前年同期比16.6%増、
 事業そのものの収益を示す事業利益は1,819億円、同41.4%増、
 営業利益は1,704億円、同30.5%増、
 親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,041億円、同7.1%増と、
 計画を大幅に上回る、増収増益となりました。

【連結】上期 営業利益



まず、連結の損益計算書のポイントをご説明いたします。

売上収益は1兆1,867億円と、前年同期比1,692億円の増収となりました。全セグメントで増収となりましたが、特に海外ユニクロ事業が1,145億円の大幅な増収となっております。

売上総利益率は49.3%と、同0.7ポイント改善しております。これは、ジーユー事業で1.5ポイント、海外ユニクロ事業で1.0ポイント、国内ユニクロ事業で0.8ポイント改善したことによりです。

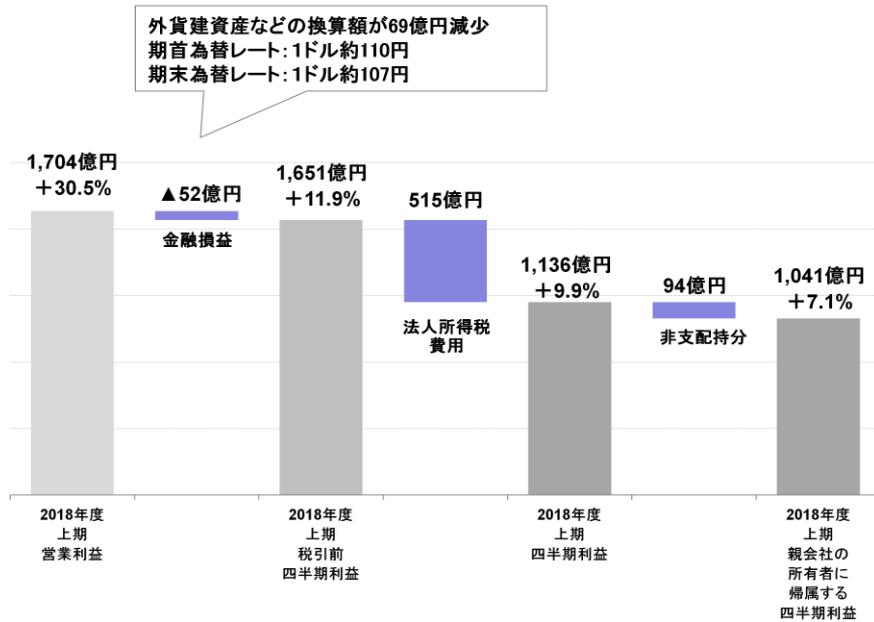
売上高販管费率は34.0%と、同1.9ポイント改善しております。これは、海外ユニクロ事業で2.3ポイント、国内ユニクロ事業で1.9ポイント改善したことによりです。

事業利益は1,819億円と、同41.4%の増益となりました。

その他収益・費用の合計は115億円のマイナスとなっております。これは主に、グローバルブランド事業を中心に減損損失を99億円計上したこと、2月末の為替レートが、期首に比べ円高となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などで為替差損が17億円発生したことによりです。

これらの結果、営業利益は1,704億円、同30.5%増の増益となりました。

【連結】上期 親会社の所有者に帰属する四半期利益



次に金融損益ですが、期首に比べ、為替が約3円の円高になったことから、外貨建資産などの換算額が減少し、金融損益はネットで52億円のマイナスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は1,651億円と同11.9%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,041億円、同7.1%増となりました。

【セグメント別】上期実績

		2017年8月期		2018年8月期		単位:億円
		上期実績		上期実績	前年同期比	
国内ユニクロ事業	売上収益	4,551		4,936	+8.5%	
	事業利益	695		888	+27.8%	
	(売上比)	15.3%		18.0%	+2.7p	
	その他収益・費用	▲7		▲1	-	
	営業利益	687		887	+29.0%	
	(売上比)	15.1%		18.0%	+2.9p	
海外ユニクロ事業	売上収益	3,928		5,074	+29.2%	
	事業利益	498		808	+62.3%	
	(売上比)	12.7%		15.9%	+3.2p	
	その他収益・費用	▲10		▲1	-	
	営業利益	487		807	+65.6%	
	(売上比)	12.4%		15.9%	+3.5p	
ジーユー事業	売上収益	977		1,058	+8.3%	
	事業利益	74		90	+22.0%	
	(売上比)	7.6%		8.5%	+0.9p	
	その他収益・費用	0		1	-	
	営業利益	74		91	+23.3%	
	(売上比)	7.6%		8.6%	+1.0p	
グローバルブランド事業	売上収益	704		784	+11.4%	
	事業利益	29		33	+11.4%	
	(売上比)	4.3%		4.2%	▲0.1p	
	その他収益・費用	▲3		▲89	-	
	営業利益	26		▲56	-	
	(売上比)	3.7%		-	-	

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6ページのスライドは、セグメント別の業績です。
各セグメントの詳細については、次のスライドからご説明いたします。

【国内ユニクロ事業】上期実績

計画を大幅に上回る、増収増益

	2017年8月期	2018年8月期	
	上期実績	上期実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	4,551 100.0%	4,936 100.0%	+8.5%
売上総利益 (売上比)	2,187 48.1%	2,415 48.9%	+10.4% +0.8p
販管費 (売上比)	1,492 32.8%	1,526 30.9%	+2.3% ▲1.9p
事業利益 (売上比)	695 15.3%	888 18.0%	+27.8% +2.7p
その他収益・費用 (売上比)	▲7 -	▲1 -	- -
営業利益 (売上比)	687 15.1%	887 18.0%	+29.0% +2.9p

単位:億円

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

7

まず、国内ユニクロ事業の上期の業績ですが、
売上収益は4,936億円、前年同期比8.5%増、
営業利益は887億円、同29.0%増と、
計画を大幅に上回る、増収増益を達成いたしました。

【国内ユニクロ事業】売上収益

上期 売上収益 4,936億円（前年同期比+8.5%）

既存店売上高は、同8.4%増収。計画を大幅に上回る

- ・今期の秋冬商戦は、好調な販売トレンドが継続
 - ✓ 例年以上の寒さにより、防寒衣料の販売が好調
 - ✓ 生産・物流・販売が連動した精緻な販売計画を策定し、状況に応じて売れ筋商品の在庫をしっかりと持ちつつ、動きの悪い商品は、早めの売価変更を行うなど、タイムリーな修正が功を奏した
 - ✓ 売上規模の大きい11月、12月の販売が好調で、既存店売上高は高い伸び率を達成
 - ✓ 1月は冬物商品の欠品により若干の減収も、2月は春物が順調に立ち上がり、増収
- ・客数：コア商品の販売が好調、コラボ商品のニュースがお客様へ伝わる
- ・客単価：比較的単価の高いアウター、ボトムスなどの販売が好調
- ・Eコマース事業：売上は372億円、同31.6%の増収、売上構成比は6.2%→7.5%

直営既存店	2018年8月期									
	前年比	9月	10月	11月	1Q	12月	1月	2月	2Q	上期
売上高	+6.3%	+8.9%	+8.9%	+8.4%	+18.1%	▲2.4%	+5.1%	+8.3%	+8.4%	+13.0%
客数	+3.9%	+5.0%	+4.6%	+4.5%	+13.5%	▲5.0%	+0.2%	+3.9%	+4.2%	+7.7%
客単価	+2.3%	+3.8%	+4.2%	+3.7%	+4.0%	+2.6%	+4.8%	+4.2%	+4.0%	+4.9%

8

国内ユニクロ事業の上期の既存店売上高は前年同期比8.4%の増収と、計画を大幅に上回りました。

今期の秋冬商戦は、好調な販売トレンドが継続いたしました。これは、例年以上の寒さにより、ヒートテック、ダウン、フリース、スウェット、暖パンといった防寒衣料の販売が好調だったことによります。また、生産・物流・販売が連動した精緻な販売計画を策定し、状況に応じて売れ筋商品の在庫をしっかりと持ちつつ、動きの悪い商品は、早めの売価変更を行うなど、タイムリーな修正をしたことが功を奏しました。

特に、売上規模の大きい11月、12月の販売が好調だったことから、上期の既存店売上高は高い伸び率を達成することができました。1月は冬物商品の欠品により若干の減収となりましたが、2月は春物が順調に立ち上がったことから、増収に転じております。

上期の客数は4.2%増となりました。これは、コア商品の販売が好調だったことに加え、JW ANDERSON、イネス・ド・ラ・フレサンジュなどのコラボレーション商品のニュースがお客様へ伝わったことによります。客単価は4.0%増となりました。これは、比較的単価の高いアウター、ボトムスなどの販売が好調だったことによります。

Eコマースの上期の売上は372億円、同31.6%の増収、売上構成比は6.2%から7.5%に上昇しております。

上期 売上総利益率 48.9% (前年同期比 +0.8p)

**値引率の大幅改善で、
粗利益率は0.8p改善、計画を上回る**

- ・為替の社内レートの円安傾向が続いていることから、原価率の上昇は継続
- ・冬物商品の販売が好調だったことから、在庫処分による値引きロスが減少し、上期の値引率は前年同期比で大幅に改善

次に、国内ユニクロ事業の売上総利益率ですが、48.9%と前年同期比0.8ポイント改善しました。これは値引率が大幅に改善したことによるもので、この改善幅は計画を上回る水準です。

為替の社内レートの円安傾向が続いていることから、原価率の上昇は継続しております。ただし、冬物商品の販売が好調だったことから、在庫処分による値引きロスが減少し、上期の値引率は前年同期比で大幅に改善いたしました。

【国内ユニクロ事業】販管費

上期 売上高販管費率 30.9% (前年同期比▲1.9p)

金額ベースでも計画以上に削減 物流費、広告宣伝費の削減が大きい

- ・物流費: 店舗関連の物流費が大幅に削減
生産から販売までのサプライチェーン全体の商品量を可視化、在庫の適正なコントロールができたこと、倉庫オペレーションの効率化による
EC関連の物流費は、EC販売の拡大、有明倉庫のEC専用化によるコスト増で増加
- ・広告宣伝費: チラシ、新聞広告、店内販促物の効率化
- ・人件費: 待遇の改善による人件費増があるも、店舗での生産性が向上
- ・減価償却費: 退店時の原状回復費用である資産除去債務の再評価による追加引き当て

物流費	前年同期比	- 0.6 ポイント
広告宣伝費	同	- 0.6 ポイント
その他経費	同	- 0.4 ポイント
人件費	同	- 0.3 ポイント
賃借料	同	- 0.2 ポイント
減価償却費	同	+ 0.3 ポイント

10

売上高販管費率は30.9%と、前年同期比1.9ポイント改善いたしました。
売上が計画を大幅に上回ったにもかかわらず、経費は金額ベースでも計画以上に削減できております。特に、物流費、広告宣伝費の削減が大きいです。

まず物流費比率ですが、前年同期比0.6ポイント改善いたしました。
改善した要因は、店舗関連の物流費が大幅に削減できたことによります。
これは、生産から販売までのサプライチェーン全体の商品量を可視化したことにより、在庫の適正なコントロールができたこと、倉庫オペレーションの効率化ができたことによります。
一方で、Eコマース関連の物流費は、Eコマース販売の拡大や、有明倉庫のEコマース専用化によるコスト負担増加に伴い、金額、比率ともに増加しております。

広告宣伝費比率は、同0.6ポイント改善いたしました。
これは、チラシ、新聞広告、店内販促物の効率化によるものです。

人件費比率は、同0.3ポイント改善いたしました。
時給や賞与などの従業員への待遇を改善したことによる人件費増がありましたが、店舗での生産性が向上したことで、上期の人件費比率は改善いたしました。

【海外ユニクロ事業】上期実績

計画を大きく上回る、大幅な増益

- ・為替による業績の押し上げ要因は平均で約7%
- ・営業利益率が3.5ポイント改善:商品構成の見直し、販売計画の精度の向上、値引きに頼らない商売への転換といった、グローバルでの経営改革が進んだことによる
- ・全エリアで計画を上回る業績を達成
- ・特に北米、グレーターチャイナ、韓国で収益性が改善
- ・米国は赤字幅が大幅に縮小。来期の黒字化に向けて着実に前進

		2017年8月期		2018年8月期		単位:億円
		上期実績		上期実績	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上収益	3,928		5,074	+29.2%	
	事業利益	498		808	+62.3%	
	(売上比)	12.7%		15.9%	+3.2p	
	その他収益・費用	▲ 10		▲ 1	-	
	営業利益	487		807	+65.6%	
	(売上比)	12.4%		15.9%	+3.5p	

11

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上収益は5,074億円、前年同期比29.2%増、営業利益は807億円、同65.6%増と、計画を大きく上回る、大幅な増収増益となりました。

なお、為替による業績の押し上げ要因は平均で約7%でした。

海外ユニクロ事業の営業利益率は15.9%と、前年同期比3.5ポイント改善いたしました。これは、商品構成の見直し、販売計画の精度の向上、値引きに頼らない商売への転換といった、グローバルでの経営改革が進んだことによります。

地域別では、全エリアで計画を上回る業績を達成し、特に北米、グレーターチャイナ、韓国で収益性が改善いたしました。米国は赤字幅が大幅に縮小し、来期の黒字化に向けて着実に前進しております。

グレーターチャイナ：計画を上回る大幅な増収増益 中国大陸は大幅な増益、台湾は営業利益が倍増 韓国：計画を大きく上回る、大幅な増益

【中国大陸】計画を上回り、大幅な増収増益

- ・ヒートテック、ダウンといった冬物商品の在庫を、2月の春節の商戦までしっかり持った商売ができたことにより、上期の既存店売上高は計画を上回り増収
- ・粗利益率は計画通りほぼ前年並み、経費比率は改善、営業利益は計画を上回る大幅な増益

【香港】計画を上回る増益

- ・冬物販売が好調で、上期の既存店売上高は増収。営業利益は計画を上回る増益を達成

【台湾】営業利益は計画を大幅に上回り、前年同期比で倍増

- ・在庫調整が一巡し、既存店売上高は増収。粗利益率も大幅に改善し、営業利益は計画を大幅に上回り、前年同期比で倍増

【韓国】計画を大きく上回る、大幅な増益を達成

- ・寒波の影響で、冬物商品が全般的に好調だったため、既存店売上高は2桁増収
- ・マーケティングと売り場の連動がより強化されたこと、値引きを抑えた商売に転換したことから、粗利益率が大幅に改善
- ・経費コントロールも継続

ここからは、地域別の業績について、お話をさせていただきます。

グレーターチャイナは計画を上回る、大幅な増収増益となりました。

まず中国大陸ですが、計画を上回り、大幅な増収増益となりました。ヒートテック、ダウンといった冬物商品の在庫を、2月の春節の商戦までしっかり持った商売ができたことにより、上期の既存店売上高は計画を上回り、増収となりました。粗利益率は計画通りほぼ前年並みとなりましたが、経費比率が改善したことから、営業利益は計画を上回る大幅な増益を達成いたしました。

香港は、冬物販売が好調だったことから、上期の既存店売上高は増収、営業利益は計画を上回る増益を達成いたしました。

台湾は、在庫調整が一巡したことで、既存店売上高は増収、粗利益率も大幅に改善し、営業利益は計画を大幅に上回り、前年同期比で倍増いたしました。

韓国も、計画を大きく上回る、大幅な増益を達成いたしました。寒波の影響で、冬物商品が全般的に好調だったため、既存店売上高は2桁増収となりました。また、マーケティングと売り場の連動がより強化されたこと、値引きを抑えた商売に転換したことから、粗利益率が大幅に改善いたしました。また、経費コントロールも継続しております。

東南アジア・オセアニア：計画を大きく上回る大幅な増益
北米：米国は計画以上に赤字幅が縮小
欧州：計画を上回る大幅な増益

【東南アジア・オセアニア】計画を大きく上回る、大幅な増収増益

- ・東南アジアは、夏物商品が好調、トラベル需要に対応したヒートテックなどの冬物商品も堅調
- ・既存店売上高は、東南アジア全体では2桁増収を継続
- ・ユニクロが強みとしているUT、ポロシャツ、ショートパンツなどのコア商品を継続的にニュース発信し、ブランドの強化を図ったことで、値引きが減少し、営業利益率は大幅に改善
- ・特に業績が良かったエリアは、タイ、インドネシア、マレーシア

【米国】収益性が大幅に改善

- ・地域別での商品構成の見直し、販売計画の精度の改善により、ヒートテックなどのコア商品の販売が拡大、ホリデー商戦の販売も好調で、既存店売上高は計画を若干上回り、増収
- ・Eコマース販売は継続的に好調なトレンド
- ・収益面では経費比率の改善が進み、計画以上に収益が改善。上期は若干の営業赤字

【欧州】計画を上回る大幅な増益

- ・欧州全体の既存店売上高は増収。ロシア、フランス、英国は順調な業績を継続
- ・2017年9月に初出店したスペインは、11月に2店舗目をオープンし、好調なスタート

13

東南アジア・オセアニア地区は、計画を大きく上回る、大幅な増収増益となりました。東南アジアは、夏物商品が好調だったことに加え、トラベル需要に対応したヒートテック、ウルトラライトダウンなどの冬物商品の販売も堅調に推移いたしました。既存店売上高は、東南アジア全体で2桁増収を継続しております。これらのエリアではユニクロが強みとしているUT、ポロシャツ、ショートパンツなどのコア商品を継続的にニュース発信し、ブランドの強化を図ったことで、値引きが減少し、営業利益率は大幅に改善いたしました。特に業績が良かったエリアは、タイ、インドネシア、マレーシアです。

次に北米ですが、米国の収益性が大幅に改善いたしました。米国は、地域別での商品構成の見直し、販売計画の精度の改善により、ヒートテック、ウルトラライトダウン、フリース、フランネルシャツなどのコア商品の販売が拡大したこと、ブラックフライデー、クリスマスといったホリデー商戦の販売も好調だったことから、上期の既存店売上高は計画を若干上回り、増収となりました。なお、Eコマース販売は継続的に好調なトレンドとなっております。収益面では経費比率の改善が進んだことから、計画以上に収益が改善し、上期は若干の営業赤字となりました。

欧州も、計画を上回る大幅な増益を達成いたしました。欧州全体の既存店売上高は増収となっております。ロシア、フランス、英国は順調な業績を継続しています。2017年9月に初出店したスペインは、11月に2店舗目をオープンし、好調なスタートとなっております。

【ジーユー事業】上期実績

増収増益 営業利益は計画を上回る

- ・既存店売上高は、計画を下回り、若干の減収。期末の店舗数が前年同期末比で、26店舗純増(国内+21店舗、海外+5店舗)、売上収益は同8.3%の増収
- ・粗利益率は同1.5ポイント改善。経費比率は、広告宣伝費や物流費で効率化を進めたものの、売上が計画を下回ったことから、同0.6ポイント上昇。営業利益は同23.3%の増益
- ・国内ジーユー事業の既存店売上高の減収の要因
 - ✓ 防寒衣料のアイテム数が少なく、実需をとりこめなかった
 - ✓ ただし、チェック柄、ドット柄といったトレンドのアイテムや、チノボトムス、ハイウエストジーンズなどの商品の販売は好調に推移

		2017年8月期		2018年8月期	
		上期実績	上期実績	前年同期比	
ジーユー事業	売上収益	977	1,058	+8.3%	
	事業利益	74	90	+22.0%	
	(売上比)	7.6%	8.5%	+0.9p	
	その他収益・費用	0	1	-	
	営業利益	74	91	+23.3%	
	(売上比)	7.6%	8.6%	+1.0p	

単位: 億円

14

次に、ジーユー事業ですが、売上収益は1,058億円、前年同期比8.3%増、営業利益は91億円、同23.3%増と、増収増益となりました。売上は計画を下回りましたが、営業利益は計画を上回っております。

ジーユー事業の既存店売上高は、計画を下回り、若干の減収となりましたが、出店により、期末の店舗数が前年同期末比で、26店舗純増となったことから、上期の売上収益は同8.3%の増収となりました。

収益面では、上期の粗利益率が、同1.5ポイント改善しております。一方、経費比率は、広告宣伝費や物流費で効率化を進めたものの、売上が計画を下回ったことから、同0.6ポイント上昇しております。この結果、営業利益は同23.3%増となりました。

なお、国内ジーユー事業の既存店売上高が減収となったのは、防寒衣料のアイテム数が少なく、実需をとりこめなかったことによります。ただし、チェック柄、ドット柄といったトレンドのアイテムや、チノボトムス、ハイウエストジーンズなどの商品の販売は好調に推移しました。

事業利益は計画を上回る増益も 減損損失の計上により、営業利益は赤字

- ・セオリー事業：事業利益は計画を上回り、増益
 - ・セオリーブランドとPLSTブランドの売上が好調だったことにより、事業利益は増益
 - ・ヘルムートラングブランドの商標権の減損損失10億円により、営業利益は減益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：事業利益は計画を下回り、赤字
 - ・既存店売上高は減収が続く。通期でも事業利益の赤字が継続することが見込まれたことから、減損損失77億円を計上
- ・プリンセス タム・タム事業：赤字が継続
- ・J Brand事業：赤字幅が縮小

		2017年8月期		2018年8月期		単位：億円
		上期実績		上期実績	前年同期比	
グローバルブランド事業	売上収益	704		784	+11.4%	
	事業利益	29		33	+11.4%	
	(売上比)	4.3%		4.2%	▲0.1p	
	その他収益・費用	▲3		▲89	-	
	営業利益	26		▲56	-	
	(売上比)	3.7%		-		

15

次に、グローバルブランド事業についてご説明いたします。

売上収益は784億円、前年同期比11.4%増、営業利益は56億円の赤字と、増収減益となりました。

事業そのものの収益を示す事業利益は、セオリー事業の増益、およびJ Brand事業の赤字幅縮小により、計画を上回り、約1割の増益となりましたが、減損損失を計上したため、営業利益は赤字となっております。

まず、セオリー事業ですが、セオリーブランドとPLST(プラステ)ブランドの売上が好調だったことにより、事業利益は計画を上回り、増益となりました。

ただし、セオリー事業が2006年に買収したヘルムートラングブランドの業績不振により、商標権の減損損失10億円を計上したことから、セオリー事業の営業利益は減益となっております。

コントワー・デ・コトニエ事業は、既存店売上高は減収が続く、事業利益が計画を下回り、赤字となりました。

通期でも事業利益の赤字が継続することが見込まれたことから、この上期で減損損失77億円を計上いたしました。

【連結】2018年2月末 B/S

単位：億円

	2017年2月末	2017年8月末	2018年2月末	前年同期末比
資産合計	13,881	13,884	16,215	+2,333
流動資産	10,868	10,775	12,951	+2,082
非流動資産	3,012	3,108	3,263	+251
負債合計	6,213	6,264	7,867	+1,653
資本合計	7,667	7,620	8,347	+679

16

次に2018年2月末のバランスシートの説明をさせていただきます。

資産合計は1兆6,215億円と、前年同期末比2,333億円増加、
負債合計は7,867億円と、前年同期末比1,653億円増加、
資本合計は8,347億円と、前年同期末比679億円増加いたしました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)**流動資産の増加 +2,082億円(1兆868億円⇒1兆2,951億円)**

- ・現金及び現金同等物の増加: +2,787億円(5,698億円⇒8,486億円)
営業キャッシュ・フローの増加、3ヶ月超の定期預金の取り崩し
- ・その他の短期金融資産の減少: ▲1,632億円(1,962億円⇒330億円)
3ヶ月超の定期預金の取り崩し
- ・たな卸資産の増加: +344億円(2,350億円⇒2,695億円)
【国内UQ】+21億円 【海外UQ】+272億円 店舗数が132店増加
【GU】+34億円 【グローバルブランド】+13億円

負債の増加 +1,653億円(6,213億円⇒7,867億円)

- ・デリバティブ金融負債の増加: +422億円(26億円⇒448億円)
保有する一部の為替予約のレートが、2月末の為替レートより円安となったため
ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はない

まず、流動資産は前年同期末比2,082億円増加いたしました。

現金及び現金同等物は、同2,787億円増加いたしました。

これは、営業キャッシュ・フローの増加および3ヶ月超の定期預金の取り崩しによるものです。

定期預金を取り崩したことで、その他の短期金融資産は、同1,632億円減少しております。

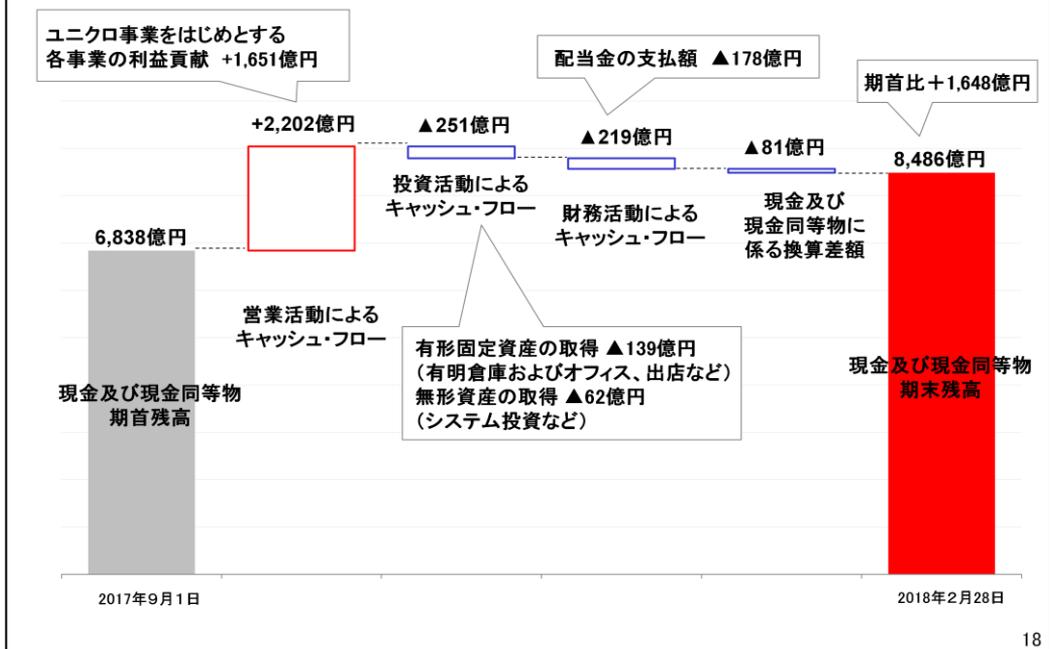
たな卸資産は、主に海外ユニクロ事業の事業拡大に伴い、同344億円増加いたしました。

次に、負債は同1,653億円増加いたしました。

デリバティブ金融負債は、同422億円増加しております。

これは、保有する一部の為替予約のレートが、2月末の為替レートより円安となったことによります。

【連結】上期 キャッシュ・フロー



次に、上期のキャッシュ・フローですが、
 営業活動によるキャッシュ・フローは、2,202億円の収入、
 投資活動によるキャッシュ・フローは、251億円の支出、
 財務活動によるキャッシュ・フローは、219億円の支出となった結果、
 2018年2月末における現金及び現金同等物の期末残高は8,486億円となりました。

【連結】2018年8月期予想 通期業績

通期業績予想を増額修正

売上収益 : 2兆1,100億円 前期比 +13.3%
営業利益 : 2,250億円 前期比 +27.5%
 親会社の所有者に
 帰属する当期利益 : 1,300億円 前期比 +9.0%

単位: 億円

	2017年8月期	2018年8月期		2018年8月期			2018年8月期 上期 実績
	通期実績	直近予想 (1/11時点)	前期比	修正予想 (4/12)	前期比	直近予想比	
売上収益 (売上比)	18,619 100.0%	20,500 100.0%	+10.1%	21,100 100.0%	+13.3%	+600	11,867 100.0%
事業利益 (売上比)	1,840 9.9%	2,050 10.0%	+11.4% +0.1p	2,450 11.6%	+33.1% +1.7p	+400	1,819 15.3%
その他収益・費用	▲76	▲50	-	▲200	-	▲150	▲115
営業利益 (売上比)	1,764 9.5%	2,000 9.8%	+13.4% +0.3p	2,250 10.7%	+27.5% +1.2p	+250	1,704 14.4%
金融収益・費用	169	0	-	▲80	-	▲80	▲52
税引前利益 (売上比)	1,933 10.4%	2,000 9.8%	+3.4% ▲0.6p	2,170 10.3%	+12.2% ▲0.1p	+170	1,651 13.9%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,192 6.4%	1,200 5.9%	+0.6% ▲0.5p	1,300 6.2%	+9.0% ▲0.2p	+100	1,041 8.8%

19

ここからは、2018年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

売上収益は2兆1,100億円、前期比13.3%増、
 事業利益は2,450億円、同33.1%増、
 営業利益は2,250億円、同27.5%増、
 金融収益・費用はネットで80億円のマイナス、
 親会社の所有者に帰属する当期利益は1,300億円、同9.0%増を見込んでおります。

これは、1月11日に発表した直近の業績予想から、事業利益で400億円、
 営業利益で250億円、親会社の所有者に帰属する当期利益で100億円の増額と
 なっております。

事業利益で400億円増額した要因は、上期に国内ユニクロ事業、
 海外ユニクロ事業を中心に、業績が大幅に上ブレしたためです。
 下期の業績予想は期初計画から変更しておりません。

営業利益は250億円の増額にとどまりましたが、これは、その他収益・費用が、
 通期で200億円のマイナスになることを見込んでいたためです。

その他収益・費用は、上期では、減損損失や為替差損により、マイナス115億円が
 計上されておりますが、これに加えて、下期は、中国、米国などの
 海外ユニクロ事業での店舗閉店に伴う除却損・閉店損など、50億円を見込んで
 おります。また、足元の為替レートが円高になっていることから、3月末の為替レート
 1ドル106円を2018年8月末の為替レートと想定し、為替差損約25億円を見込んで
 おります。

なお、金融収益・費用も、為替レートを1ドル106円を前提とし、為替差損80億円を
 予想に織り込んでおります。

2018年8月期 各事業の下期業績予想(1)

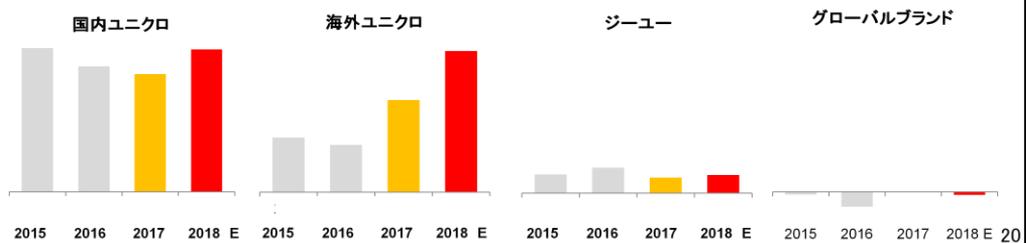
海外ユニクロ事業:下期は引き続き大幅な増収増益を見込む

- ・グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国は引き続き大幅な増収増益となり、業績をけん引する見込み
- ・北米事業は赤字が半減することを見込む

国内ユニクロ事業:下期は若干の増収増益を見込む

- ・下期の既存店売上高は約2%の増収を予想、うちEコマースは30%増収を見込む
- ・粗利益率は、原価率の上昇により、若干の低下を見込む
- ・広告宣伝費の効率化、在庫水準、商品量の適正化を進めることで、物流費、人件費など経費削減を進めていく予定

セグメント別 営業利益のトレンド(イメージ)



次に、セグメント別の通期の業績予想についてご説明いたします。

海外ユニクロ事業は、下期も引き続き大幅な増収増益を見込んでおります。エリア別では、グレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア地区、韓国は引き続き大幅な増収増益となり、業績をけん引する見込みです。北米事業は赤字が半減することを見込んでおります。

国内ユニクロ事業は、下期は若干の増収増益を見込んでおります。下期の既存店売上高は約2%の増収を予想し、うちEコマースは30%増収を見込んでおります。粗利益率は、原価率の上昇により、若干の低下を見込んでおります。経費は引き続き、広告宣伝費の効率化に加え、在庫水準、商品量の適正化を進めることで、物流費、人件費などの経費削減を進めていく予定です。

ジーユー事業: 下期は若干の増収増益を見込む

- ・春夏トレンド商品のニュース発信、売れ筋商品の増産体制の強化を図ることで、既存店売上高は若干の増収を見込む
- ・値引コントロールによる粗利益率の改善を図ることで、営業利益は若干の増益を見込む

グローバルブランド事業: 下期は増収増益を予想

- ・セオリー事業は、セオリーブランド、PLSTブランドが引き続き好調な売上トレンドを維持、下期のセオリー事業は増収増益となる見込み
- ・コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業は、下期はほぼ前年並みの業績
- ・J Brand事業は、下期は赤字幅が縮小、収益性の改善を見込む



ジーユー事業の下期は、若干の増収増益を見込んでおります。上期は既存店売上高が減収と、売上収益は計画を下回りましたが、下期は春夏トレンド商品のニュース発信や、売れ筋商品の増産体制の強化を図ることで、既存店売上高は若干の増収になることを見込んでおります。同時に、値引コントロールによる粗利益率の改善を図ることで、営業利益は若干の増益を見込んでおります。

グローバルブランド事業の下期は、増収増益を見込んでおります。セオリー事業は、セオリーブランド、PLST(プラステ)ブランドが引き続き好調な売上トレンドを維持し、下期のセオリー事業は増収増益となる見込みです。コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業は、下期はほぼ前年並みの業績、J Brand事業は、下期は赤字幅が縮小、収益性の改善を見込んでおります。

2018年8月期 配当金予想

配当金を増額修正
中間配当金 200円を予定
年間配当金 400円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2016年8月期	185円	165円	350円
2017年8月期	175円	175円	350円
2018年8月期（1/11予想）	175円	175円	350円
2018年8月期（4/12予想）※	200円	200円	400円
修正額	+25円	+25円	+50円

※ 2018年8月期の中間配当については4月12日開催の取締役会にて決議しております。
 なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、2018年8月期の1株当たり配当金についてご説明いたします。
 本日の取締役会にて、中間配当金を、1株当たり200円と決議いたしました。
 これは前年に比べ、25円の増配となっております。

また、期末配当金についても1株当たり200円を予想しております。
 この結果、年間の配当金は1株当たり400円、50円の増配を
 予想しております。

以上で私からの説明を終わります。ありがとうございました。

<参考資料> 連結対象事業別出退店 実績

【単位:店舗】	17年8月期 期末	2018年8月期(2017/9~2018/2)実績				2018年8月期(2017/9~2018/8)予想			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,920	87	18	+69	1,989	207	50	+157	2,077
国内ユニクロ事業:※	831	8	11	▲3	828	30	30	0	831
直営店	790	7	10	▲3	787	-	-	-	-
大型店	209	6	1	+5	214	-	-	-	-
標準店等	581	1	9	▲8	573	-	-	-	-
FC	41	1	1	0	41	-	-	-	-
海外ユニクロ事業:	1,089	79	7	+72	1,161	177	20	+157	1,246
中国	555	42	5	+37	592	-	-	-	-
香港	25	3	0	+3	28	100	-	-	-
台湾	65	0	0	0	65	-	-	-	-
韓国	179	3	1	+2	181	7	-	-	-
シンガポール	24	2	0	+2	26	-	-	-	-
マレーシア	41	2	0	+2	43	-	-	-	-
タイ	34	1	0	+1	35	40	-	-	-
フィリピン	40	7	0	+7	47	-	-	-	-
インドネシア	12	2	0	+2	14	-	-	-	-
オーストラリア	12	2	0	+2	14	-	-	-	-
米国	44	2	1	+1	45	-	-	-	-
カナダ	2	1	0	+1	3	10	-	-	-
英国	10	1	0	+1	11	-	-	-	-
フランス	19	3	0	+3	22	-	-	-	-
ロシア	20	5	0	+5	25	20	-	-	-
ドイツ	5	0	0	0	5	-	-	-	-
ベルギー	2	1	0	+1	3	-	-	-	-
スペイン	0	2	0	+2	2	-	-	-	-
ジーユー事業	372	14	2	+12	384	31	9	+22	394
グローバルブランド事業合計	1,002	22	27	▲5	997	33	51	▲18	984
セオリー事業※	538	16	14	+2	540	22	-	-	-
コントワー・デ・コトニエ事業※	333	4	9	▲5	328	8	-	-	-
プリンセス タム・タム事業※	131	2	4	▲2	129	3	-	-	-
総 合 計	3,294	123	47	+76	3,370	271	110	+161	3,455

注: ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店は含む

＜参考資料＞為替レート

連結決算取込 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)実績	108.7	117.9	136.6	15.9	9.4
2018年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)実績	111.7	133.1	150.0	17.0	10.1
2017年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.1	120.7	139.7	16.1	9.7
2018年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	110.0	130.0	146.0	16.7	10.0

バランスシート適用 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2017年8月期 第2四半期末為替レート 実績	112.4	118.9	139.8	16.4	9.9
2018年8月期 第2四半期末為替レート 実績	107.4	131.3	149.3	17.0	10.0
2017年8月期 期末為替レート 実績	110.4	131.3	142.7	16.7	9.8
2018年8月期 期末為替レート 予想	106.2	130.5	148.8	16.9	9.9

設備投資・減価償却費

単位：億円

	設備投資						減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	ジーユー	グローバル ブランド	システム他	合計	
2017年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	32	121	27	7	104	293	179
2018年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	49	110	24	13	70	268	217
2017年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	66	243	76	29	181	597	396
2018年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	78	269	54	28	341	772	463